

浦添接戦、10年ぶり栄冠

男子は興南貫禄V17

ハンド九州県予選

ハンドボールの第30回琉球大会県予選最終日は22日、一育館で男女の決勝を行った。女子は浦添が残り1分



浦添一那覇西 後半、浦添の富本望美が中央からシュートを放つ
＝東風平運動公園体育館(伊禮健撮影)

50秒で勝ち越しゴールを決め、24-23で那覇西を下し、10年ぶり5度目の栄冠に輝いた。

男子は興南が序盤から力を発揮し、36-28でコザを破って17年連続26度目の優勝を飾った。

男女の上位2校は来年2月に大分県である九州高校選抜大会に出場し、全国選抜大会(愛知県)の出場権獲得を争う。

▽男子決勝

興南 36
1125
1513
28
コザ

▽女子決勝

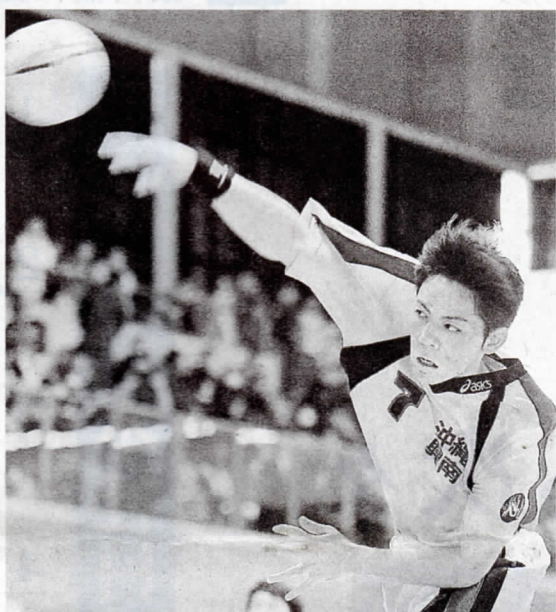
浦添 24
1311
149
23
那覇西

残り1分50秒 逆転弾

先月あった県新人大会覇者の女子浦添が1点を争う大接戦を制し、10年ぶりに頂点に立った。

宮城美季を中心に1-2-3ディフェンスで那覇西のボールを高い位置で徹底マーク。「簡単にシュートを打たせないようにした」と宮城。スチールやGK平良亜都彩の好セーブなどでボールを奪うと、エー

序盤から縦横無尽



興南-コザ 前半28分、興南の下地利輝がシュートを決める

全国総体優勝メンバーが多く残る興南が序盤から攻守でコザを圧倒。堅い守備から一気にゴール前までボールを運ぶ速攻や、素早いパス回しで相手をかき回し

ス翁長鈴や宮城らが駆け上りがつてゴールを決め、前半を11-9とリード。

後半、宮城が2度目の反則退場で数的不利になると流れが那覇西に傾き、4連続失点で逆転を許した。

望美が決勝点となるロングシュートを打ち込んだ。ほとんど前を狙って打ったと前半途中出場からの6得点に笑みをこぼした。

九州大会に向けて、喜舎場淳一監督は「もっと守って走ってミスのないハンドをしないといけない」とし、上位進出を目標にへきなら成長に期待した。

それでも、宮城は「絶対に優勝できる」と戻ってすぐに同点ゴールを押し込み、残り1分50秒では富本

黒島宣昭監督も後半のプレーに「もう少し一人一人がしっかりやってほしい」と、注文を付けた。

(石川亮太)